

第9期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

※「介護保険事業(支援)計画の進捗管理の手引き(平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課)」の自己評価シートをもとに作成

第9期介護保険事業計画に記載の内容				R6年度(年度末実績)		
区分	現状と課題	第9期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
①自立支援・介護予防・重度化防止	町の高齢者数は今後も増加していくことより、介護が必要となる方も増えてくることが予想され、要支援・要介護状態に陥ることを予防するための取り組みが今後も必要となっています。	地域リハビリテーション活動支援事業の実施 老人クラブやカフェサロンなどの地域での集まりにリハビリ専門職等を派遣し、フレイル予防の知識の普及や運動、レクリエーションなどで身体を動かすことで、身近な地域での介護予防の取り組みを支援します。	年12回	計12回開催 実10団体で開催 【実施団体】 老人会 6回 実5団体 カフェサロン 2回 実1団体 その他 各1回 赤十字奉仕団 ボランティア登録者 学習会 介護者サロン JA南幌女性部	○	計画通りの開催は達成できている。しかし、老人会やサロン活動においての利用が低迷傾向にある。この事業は、リハビリ専門職等の専門性を活かし、地域活動の場にリハビリの専門職派遣し介護予防の取り組みを強化する事業であり、実施した団体や参加者からは好評を得ている。 自立支援・介護予防の目的達成のため、今後も周知に努め専門職と調整を図り事業を推進していく。
①自立支援・介護予防・重度化防止	年齢が高くなるほど要支援や要介護の認定率も高くなる傾向にあることから、在宅医療を含め、医療と介護の連携を強化し、過不足のないサービスを適切に提供するよう働きかけを行い、効果的・効率的な介護給付を推進します。 介護サービスの質の確保及び向上では、従業者の専門性の向上と介護人材の育成・確保に取り組み、利用者が円滑に利用できる環境づくりに努めます。	自立支援型地域ケア個別会議の開催 高齢者がその人らしく普通に生活するための手段を話し合う場として、地域の専門職から助言を得ることで、高齢者の生活行為の課題等を明らかにし、介護予防に資するケアプラン作成とそのケアプランに即したケアの提供を行うことなどを目的としています。	年6回	計6回開催 うち2回は講師を招き、実際の会議開催と自立に向けたケアマネジメント学習会を実施した。	○	医療・介護・保健に関わる従事者を収集し予定通り開催できた。関係者多職種による会議や講師の講評を受け、自立に向けたケアマネジメントについて学習を深める機会となっていることは、ケアマネジメントの質の向上になっていると評価する。
②給付適正化	高齢者人口の増加に伴い、介護保険サービスの利用者及び介護給付費の増大が見込まれる中、不適切なサービス提供について見直し、適切な保険料水準を維持することが重要です。 適切なマネジメントにより、介護保険サービス利用者が真に必要とするサービスを見極め、事業者がルールに従って適正にサービスを提供するよう促します。	主要3事業(要介護認定の適正化、ケアプランの点検、総括点検・医療情報との突合)を実施し、第9期計画期間における適正化に努めます。	要介護認定の適正化 ○認定調査票の点検割合 100% ○二次判定における変更率の分析 年1回 ケアプランの点検 ○1事業所あたりのケアプランチェック数 年2件 ○住宅改修施工内容の点検割合 100% ○福祉用具購入・福祉用具貸与理由書の確認割合 100% 医療情報との突合・総括点検 ○医療情報突合回数 100% ○総括点検回数 100%	要介護認定の適正化 ○認定調査票の点検 100% 認定調査票と特記事項の整合性や判断基準等を点検し確認した。 ○二次判定における変更率の分析 認定審査会における認定結果について分析。データを基に、他自治体との比較と状況把握を年1回行った。 ケアプランの点検 ○町内1ヶ所の指定居宅介護支援事業所を訪問し、介護支援専門員との面談を通じて、自立支援に資するケアマネジメントの普及啓発を推進し、支援の質の向上を図った。 ○住宅改修施工内容の点検・福祉用具購入・福祉用具貸与理由書の確認 100%実施した。住宅改修・福祉用具購入の給付適正化のため、申請内容の審査を綿密に行うとともに、申請者(本人、家族、住宅改修理由書作成者、工事業者など)に助言・指導を行った。 医療情報との突合・総括点検 介護給付(介護報酬)及び医療給付(診療報酬)の情報を突合し、点検を行うようしていたが十分に行うことができなかった。	△	給付担当職員と保健師との間で、国保連合会からのデータを有効に用いて確認を行っていくといった対応をとり改善をはかる。